



当館の所蔵資料から

京都に関する本～年表・史資料編

Q 「京都に関する資料がありますか？」

A 「当館では 1 階南側の書架にまとめています(書架番号 9～14)。

そのなかから、お問い合わせの際によく利用するいくつかの資料をご紹介します。

資料の解説は各資料の記載および「京都大事典」(淡交社 K/291.62/Ky6)を参考にしました」

年表・史資料

「京都府百年の年表 全 10 巻」京都府編 (K/216.2/Ky6)

「京都府百年の資料 全 9 巻」京都府編 (K/216.2/Ky6)

「京都府統計史料集 百年の統計 全 4 巻」京都府編 (K/351.62/Ky6)



京都府庁

昭和 43 年 6 月の京都府開庁 100 年を記念した記念事業のひとつとして計画、刊行されました。
明治以降の事実調査には欠かせない資料のひとつです。

百年の年表 内容一覧

- 1 政治・行政編
- 2 商工編
- 3 農林水産編
- 4 社会編
- 5 教育編
- 6 宗教編
- 7 建設・交通・通信編
- 8 美術工芸編
- 9 芸能編
- 10 総索引(年表のみ)

「京都府百年の年表」の収録対象期間は慶応 3(1867)年から昭和 43(1968)年。

各編の冒頭には「概説」があり、巻末には各巻の「索引」が付されています。(全巻の索引をまとめたものが第 10 巻「総索引」。人名編と事項編に分けて付されています。)

年表の記載項目は「京都府」「参考」「日本」の各欄に分かれ、「京都府」「参考」欄の記事にはその出典が記載されています。

出典には各種団体の「年史」類だけでなく、「京都日出新聞」なども多く引用されています。

「京都府百年の資料」には「京都府百年の年表」作成の際に収集した資料をまとめたものですが、巻ごとに収録された資料に特徴があります。

百年の資料 内容一覧(収録資料の一例)

1 政治行政編	とくに時代区分はせず、「京都府の成立」など項目別に年代順に収録
2 商工編	明治前期・明治後期・大正期・昭和前期に大別し年代順に収録
3 農林水産編	農業は戦前期(4 期に区分)と敗戦直後の戦後期、林業・水産業は事項別
4 社会編	社会運動(3 期に区分)と社会福祉(5 期に区分)に分け収録
5 教育編	慶応 2 年から昭和 22 年まで、明治前期、後期、大正昭和期に区分
6 宗教編	明治全期の宗教について神仏分離、社寺領上知等項目別に収録
7 建設交通通信編	明治前期に関する資料を建設・交通・通信の 3 区分で収録
8 美術工芸編	関西美術院院内日誌、森寛齋日記、村上華岳日記を収録
9 芸能編	時代区分はせず、「東山名所踊」等の特記すべき項目別に収録

「京都府統計史料集 百年の統計」は明治 12 年以降の「京都府統計書」を主にし、各編に総説が付され概要が把握できます。

現在も残る明治期の建造物



インクライン



平安神宮



京都博物館



京都郵便局



日本銀行京都出張所

「京都町触集成 全 15 巻」京都町触研究会編（岩波書店 K/322.15/Ky6）

町触とは、京都町奉行所が京都市中の町々に出した法令・伝達事項の総称で、京都町奉行所が作成したものと、江戸からの触状を京都市中へ伝達するもの（江戸触）があります。時代劇で見られるような「高札」に張り出された触れもあります。

元禄 5(1692)年(第 1 巻収録)から明治 4(1871)年(第 13 巻収録)に至る、180 年間の触書が収録されています。3 冊からなる別巻には参考資料が収録され、正平 10(1355)年から元禄 4(1691)年までの触書は別巻 2 に収められています。

本文は翻刻されていますが、読み下し文はなく、索引や一覧もありますが、当時の社会の様子をうかがい知る資料です。

「第二巻 自享保十二年 至寛保三年」には、享保 14(1729)年 4 月 23 日に長崎から江戸に運ばれた象が京都に到着する際の注意が記載された触書が収録されています。

なお、「江戸町触集成 全 22 巻」近世史料研究会編（塙書房 210.5/Ki46）には、正保 5(1348)年から慶応 4(1868)年までの触書が収録されています。



「京都労働運動史年表」京都府労働経済研究所編（K/366.62/Ky6）

（1945 年～1955 年、1956～1965 年、1966～1975 年、1976～1985 年の各編）

「京都労働運動史資料」京都府労働経済研究所編（K/366.62/Ky6）

（1945～1965 年、1966～1985 年の各編）

「京都労働運動史（年表・資料）1986 年～1995 年」京都府府民労働部労政課編（KE/366.62/Ky6）

「京都労働運動史年表」の 4 冊は「世界と日本」「京都地方」の大きな区分の下に、「京都地方」は「政治・経済・社会」「組織・集会」「紛争議」に細分し編集され（「京都労働運動史（年表・資料）」では「国内外の動き」と「京都地方」は「政治・経済・社会」「労働運動」の 2 項目）、それぞれ一年毎に「概観」が付されています。

「京都労働運動史資料」への収録基準は、「重要度が高いと考えられる運動」・「注目された運動」・「京都の運動に限定」とされています。

明治以降、第二次世界大戦までの京都の労働運動については「京都地方労働運動史 増補版」渡部徹編著（京都地方労働運動史編纂会 K/366.62/W46）があります。



「近代歌舞伎年表 京都篇 全 11 巻」国立劇場近代歌舞伎年表編纂室編（ハ木書店 K/774.26/Ko49）

ちょっと趣の異なる資料ですが、京都は「歌舞伎発祥の地」、師走の顔見世は今も年中行事です。この資料は、明治元年から昭和 22 年を収録対象にしています。

歌舞伎を中心にして、演目・配役はもとより観劇料や新聞などから周辺記事（劇界記事）を記載しています。

書名は「歌舞伎年表」ですが、「恒常的に演劇を興行していたと認められる劇場」で「催されたすべての興行」と、「演劇についてはそれ以外の場所において興行されたものも収録対象」にしていますので、明治 15 年 11 月に「道場演劇場」で犬養毅、尾崎行雄他の弁士が登場し開催された「政談大演説会」も紹介しています。備考欄には「仲々盛なる景況にて、来聴人山をなし満場立錐の地もなき程なりき」と当時の新聞記事を引用し、想像をかきたててくれます。

別巻には「演目名索引」があり、どのような演目が「人気」があつたのかを探る手がかりにもなりそうです。関連性のある演目は「〇〇もの」とくられて記載されていますが、B5 版 4 段組の編集で「忠臣蔵もの」は約 20 ページを占めています。

巻末には「京都市劇場史略図」があり、新京極、千本・西陣周辺、祇園・東山周辺、千本三条周辺、伏見周辺それぞれに、各劇場名の変遷がわかります。

同様の資料に明治元年から昭和 22 年を対象にした「近代歌舞伎年表 大阪篇 全 10 巻」国立劇場近代歌舞伎年表編纂室編（ハ木書店 774.26/Ko49）があります。

また時代をさかのぼって、永禄 2(1559)年から明治 40 年を対象にした、「歌舞伎年表 全 8 巻」伊原敏郎著（岩波書店 774.2/I25）もあります。



京都に関する資料は京都府立京都学・歴彩館が重点的に収集しています。

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町 1-29

TEL 075-723-4833 FAX 075-791-9466

ホームページアドレス <https://www.pref.kyoto.jp/rekisaikan/>